

奥の細道むすびの地「大垣」 十六万市民投句

一般の部

令和六年十月度 入賞句一覧 投句数 五百四十七句



特選

度会 さち子 選

朝刊の重く柔らか秋深し

海津市南濃町 水谷 勲一

小鳥の声や通学する子どもたちの声を聴きながら、コーヒーを淹れ、ゆつくりと朝刊を読む。私の一日はここから始まる。昔はもつとインクの匂いもしたし、今は紙質もいくぶん柔らかい。さて、作者が「やわらか」と感じるのは、ようやく空気、秋の日差しに秋の「やわらか」と深まりを感じるからだろう。重さといえは選挙に揺れたここ数週間の新聞は確かに「重く」もあつた。

中学生群れて笑うて秋茜

大垣市 長柄 明美

下校の途中なのだろう。何か面白いことがあつたのだろうか。学校から解放され、突つき合ったり、肩をたたいたりとうきうきと手放して笑い転げる中学生たち。今どきの中学生にとつて可笑しいこと、楽しいことは何だろうか。恋ばなか、教師のことか、部活のことか・・・。何でもよい。学校生活が楽しければそれで十分。彼らの周りを、囃すように秋茜が群れ舞っている。

鶏頭や母の形見の裁鋏

東京都新宿区 故里恋心

昔の母たちは、着物も洋服の仕立ても仕事のひとつであつた。そのための裁鋏はもつとも大切な道具であつた。握り手の大きいずつしりと重くもある裁鋏。机の引き出しから出てきたのだろうか。母の姿を思い浮かべる作者。そういえばその形は、大きな鶏冠のような鶏頭花を感じさせもする。母と裁鋏の取合せはよくあるが、この場合鶏頭花が効いている。

秀逸

桃をむくやさしくなつてゆく私

東京都世田谷区 関戸 信治

秋の風どこかほころびあるごとく

大垣市 松岡 みつ

雲かろく連山わたる白露の日

岐阜市 伊藤 をさむ

バス停は楠の大樹よ秋暑し

大垣市 岡田 あや子

また一基墓じまひせり曼珠沙華

大垣市 三輪 葉加

葉に一滴ころがす露の永き刻

大垣市 北村 えみ子

居酒屋の筆文字太し新豆腐

安八郡輪之内町 野村 照子

風鈴や風のわがまま奏でをり

東京都江戸川区 羽住 玄冬

駄菓子屋の六玉算盤秋うらら

三重県鈴鹿市 松井 政典

記念樹の多き保養所小鳥来る

東京都武蔵野市 木嶋 純子

入選

爽やかや一番乗りの理髪店

埼玉県川口市

吉永 寿美子

稲雀みんな一茶の句が好き

静岡県浜松市

関根 由雄

説法に鈴虫の音のもれ聞こゆ

大垣市

浅野 翔泉

人絶えし駅のホームの曼珠沙華

大垣市

小林 研

早稲を刈る匂いが風に乗ってくる

本巢郡北方町

三輪 幸恵

里帰りどの径行くも柿たわわ

海津市海津町

横井 美圭

秋霖の清めし空に星数多

大垣市

永江 美佳

ワン切りの後の暗闇蚯蚓鳴く

揖斐郡大野町

横山 道男

返信はスタンプひとつ鰯雲

大垣市

岡田 幸子

虫の音やいつか長湯となりにけり

愛知県名古屋市中区

岩田 勇

ボールごと秋の夕焼を蹴り上げる

三重県四日市市

後藤 允孝

古文もう異国の言葉色鳥来

熊本県熊本市

夏風 かをる

竿を振る少年一途秋の潮

神奈川県相模原市

中村 光枝

秋風の青き耳環を揺らしけり

各務原市

能登 航

秋澄むや碁盤に初手の音響く

神奈川県横浜市

龍野 ひろし

選者吟

来迎図見てきし宇治の十三夜

さち子



一般の部